大分県の製造工場内に設置した粘着トラップで捕獲された クロモンチビゴキブリ

木村 悟朗* 生田 秀 田邊時男 富岡康浩 谷川 力

イカリ消毒株式会社 (〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-3-25)

(受領: 2015年5月2日; 登載決定: 2015年6月3日)

Anaplecta japonica Asahina collected with a sticky trap from
a factory in Oita Prefecture, Japan

Goro KIMURA*, Suguru IKUTA, Tokio TANABE, Yasuhiro TOMIOKA and Tsutomu TANIKAWA

* Corresponding author: IKARI Corporation, 4-3-25, Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0022, Japan
(E-mail: g-kimura@ikari.co.jp)

IKARI Corporation, 4-3-25, Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0022, Japan

(Received: 2 May 2015; Accepted: 3 June 2015)

Abstract: We collected just one *Anaplecta japonica* Asahina, 1977 with a sticky trap on the second floor of a factory in Oita Prefecture, Japan, between August 22 and September 10, 2014.

Key words: Indoor, Oita Prefecture, *Anaplecta japonica*

クロモンチビゴキブリ *Anaplecta japonica* Asahina, 1977 は本州 (大阪府), 四国 (徳島県, 愛媛県, 高知県), および九州 (福岡県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県) に分布している (朝比奈, 1977, 1991; 濱田・酒井, 2002; 鈴木, 2005; 三原, 2010). 菊屋 (1991) は九州地方におけるゴキブリ分布を調査し, 本種の採集記録や生態を記述している. 一方, 木船 (1992) は, 1979年10月4日に福岡市で本種を採集したが, その後はその採集地近辺からまったく採集されないことを報告している. 現在, 本種は鹿児島県では分布特性上重要, 高知県では準絶滅危惧 (NT) に指定されており (野生環境調査協会・Envision環境保全事務所, 2015), 地域によっては採集記録が乏しい. 大分県では, 佐伯市 (記載は Saeki だが, おそらく Saiki のことと思われる) において 1950年10月11日に雄1個体, 1951年9月21日に雌1個体, 同年10月1日に雌1個体がそれぞれ捕獲されているが (朝比奈, 1977), その後同県からの採集記録は少ない (朝比奈, 1991; 菊屋, 1991). 本種は草地性で, 山間の路上, 害虫発生予察灯への飛来, 植物性有機物の間から発見されており, 屋内での捕獲例は見当たらない (朝比奈, 1977, 1991). 我々は大分県宇佐市の製造工場2階 (屋内) において本種成虫を捕獲したので報告する.

クロモンチビゴキブリ *Anaplecta japonica* Asahina, 1977

(Fig. 1)

調査標本 1♀, 大分県宇佐市, 2014年8月22日~9月10日, 田邊時男採集, 前翅長5.2mm. 標本は粘着トラップ (イカリ消毒株式会社製: ゴキブリインジケーター小型) に捕獲された状態で, 著者 (木村悟朗) が保管している.

所 見

標本の個体は, 朝比奈 (1977, 1991) に示された特徴に基づいてクロモンチビゴキブリと同定された.

歩行性昆虫のモニタリング調査のため, 粘着トラップを工場2階の倉庫に設置した. この粘着トラップは基本的に1カ月ごとに交換し, 捕獲された昆虫類を同定, 計数した. 本種が捕獲された粘着トラップは2014年8月22日に設置し, 2014年9月19日に交換した. ただし, 2014年9月10日に工場内を調査した際に, 標本の個体の捕獲を確認した. したがって, この個体は2014年8月22日から9月10日までに捕獲されたものであり, 採集日はこの期間とした. なお, 9月10日の時点で, 粘着トラップ上の個体は死亡していた. 粘着トラップに捕獲された個体は成虫であり, 朝比奈 (1977, 1991)

Fig. 1. Female *Anaplecta japonica*.

が記している成虫の出現時期（9月～11月）に一致した。粘着トラップには、9月10日から交換日（9月19日）までにクロモンチビゴキブリ以外は捕獲されなかった。また、2012年3月から2015年3月までの間でも、この粘着トラップの設置地点では9月の粘着トラップ交換時を除き、クロモンチビゴキブリを含めてゴキブリ類の捕獲はなかった。さらに、建物全体でも、2012年3月から2015年3月まで、クロモンチビゴキブリの捕獲はなかった。

標本の個体は、工場2階（屋内）に設置された粘着トラップに捕獲された。この粘着トラップは倉庫として使用されている部屋に設置されており、この部屋には屋外に直接通じる扉や窓がない。本種の生態および捕獲状況からクロモンチビゴキブリは屋内に定着したとは考えにくい。ゴキブリ類は受動的に長距離移動することが指摘されており（緒方ら、1989）、標本の個体もまた倉庫に保管される原材料や包装資材などに潜伏して屋内に侵入したと予想される。朝比奈（1991）以降、大分県産ゴキブリ目は十分にまとめられていないが、朝比奈（1977）が記録した1951年以降の大分県におけるクロモンチビゴキブリの採集記録は少なく、1984年9月27日に大分市、その後は佐賀関町と佐伯市でも報告されている（菊屋、1991）。菊屋（1991）は常緑照葉樹林帯の低木層空間における本種成虫の飛翔行動を記述するとともに、成虫の出現期が秋季に偏るため採捕例が少ない可能性を指摘している。本報告は、クロモンチビゴキブリが屋内で記録された稀な事例であるとともに、この採集記録自体も貴重であろう。

摘 要

クロモンチビゴキブリが2014年8月22日から9月10日までの間に大分県の製造工場2階で捕獲された。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、調査はイカリ消毒株式会社の黒澤耕作氏、山本拓弘氏、三浦大樹氏にご協力いただいた。この場を借りて深謝する。

文 献

- 朝比奈正二郎. 1977. 日本産ゴキブリ類分類ノート VII. チビゴキブリ科の種類. 衛生動物, 28: 272-280.
 朝比奈正二郎. 1991. 日本産ゴキブリ類. 253 pp., 中山書店, 東京.
 濱田典幸, 酒井雅博. 2002. 愛媛県のゴキブリ目. 四国虫報, 36: 1-6.
 木船悌嗣. 1992. 邦産野生ゴキブリ3種の分布資料. 衛生動物, 43: 267.
 菊屋奈良義. 1991. 九州地方のゴキブリ類の分布状況（予報）. 家屋害虫, 13: 29-39.
 三原 實. 2010. 日本産ゴキブリ目の種目録. 有害生物, 7: 78-89.
 緒方一喜, 田中生男, 安富和男. 1989. ゴキブリと駆除. 197pp., 日本環境衛生センター, 神奈川.
 鈴木知之. 2005. ゴキブリだもん. 143 pp., 幻冬舎, 東京.
 野生環境調査協会・Envision環境保全事務所. 2015. 日本のレッドデータ検索システム [accessed April 5, 2015]. <http://www.jpnrdb.com/>